

## 曹洞宗中国管区

## 教化センターだより

## 合掌礼拝と脚下照顧



統監 長岡徹宗

昭和六十三年、本庁の布教方針については、管長告諭と共に、近々公布になると思いますが、昨年に引き続き「テーマ」は、

『脚下照顧の生活を実践し、整理整頓された環境、家庭作りをめざす』ということのようです。

このことについて私見を述べてみたいと存じます。

かつて、中野東禅老師の「人生のわかる人間になりたい」という一文を拝読したことがあります。その中に、

「私はある地方新聞社の印刷工場に勤めていたことがある。その仕事はとてもおもしろく、仕事は朝八時から夜八時までにおよんだ。寄合所

帯の工場だから職人気質などなくて、なんでもやらしてくる。解版、製本、文選等々、ほんとうに楽しい二年間であった。

ある日の午後新聞の作業が突然ストップさせられた。となりの漁港に、第五福竜丸という漁船が舫ってきたが、ビキニ環礁でアメリカの水素爆弾の死の灰を浴びたらしいというので、その記事にさしかえるためである。

これは当時、日本はもちろん世界中をゆるがす大事件であった。

そのとき、私は水爆というものを理解出来なかった。小学一年で終戦を迎えたのに原爆についてもよくわからない。自分で新聞をつくらせているのに世界がわからない。こうして自分の無知に対する思いは日まじりに強くなっていった。

そして乞食をしてもよいから自分のわかる人間、人生のわかる人間になりたいと思うようになった。それが私の出家の動機であった。

小、中学校時代にもらった賞状や、ノートなどすべて焼きすて、自分だけはじめをつけるために修行道場に入ったのである。

それ以来二者択一を迫られるような事態に直面すると、このときのことを思いだす。すると、目先のこと

と、本当に大切なことを、見分ける嗅覚が身についたような気がする。」

新聞を作りながら世間のことが解らない人間から人生の解る人間への脱皮!! なんとすばらしいことではないでしょうか。

お互に、合掌礼拝を口にしながらその真意が理解されないで一つのイデオロギーにおどらされている現代人……。

人生をかざるための多くの卒業証書、履歴書といったものを、一度、頭の中から焼き払って、脚下を照顧しなければならぬのではないのでしょうか。

履物をそろえることに始まり、仏壇の花をかえ、香炉の灰を清掃し、木魚の塵を払って、はじめて敬虔な合掌礼拝がそこに生まれてくるように思われます。

人命は与えられたもので、自分のものではない。しかし人生は自分の生涯を通して、コツコツと積みあげてゆくもので、誰からもうばわれぬ自分だけのものであります。

人命軽視、道徳不在、人間性の喪失、といった何処かくるった現代社会に生きる私達の道しるべとしての脚下照顧を根底とした、合掌礼拝の日々を送りたいものです。

教化センター昭和63年度行事計画

(昭和63年4月1日～昭和64年3月31日)

月	日	行 事	宗務所別	備 考
4	1	教化センター便り第4号発送		
	11~12	広島県宗務所会	広島	
	13~15	全国教化センター職員中央協議会	宗務庁	
5	上旬	広島県宗務所布教委員会	広島	
	中旬	岡山県宗務所管内 集中伝道	岡山	於、岡山県宗務所管内
	20	管区布教師連絡会	管区	
	下旬	中国管区集会	管区	
6	7~8	中国管区内青少年教化員研修会	管区	於、島I宗務所管内
	17	第4回洋上セミナー役員会	管区	
7	26~28	第4回洋上セミナー子供禅の集い	管区	於、隠岐
8				
9	16	センター企画委員・総合企画委員会	管区	
	17	第2回管区禅をきく会、準備会	鳥取	
	上旬	中国管区布教師協議会・講習会	山口	
10	3	第2回管区禅をきく会、会場打合会	鳥取	
	22	第2回管区禅をきく会	鳥取	講師、ひろ さちや
11	上旬	広島宗務所管内 集中伝道	広島	於、広島宗務所管内
	中旬	全国教化センター職員連絡協議会		
12	中旬	全国教化センター統監・主監会議	宗務庁	
1	下旬	教化センター便り第5号編集会議	センター	
2	中旬	センター運営委員会布教委員長会議	管区	
3	中旬	教化センター便り第5号完成		

特別寄稿

意識革命としての禅



ひろ さちや

二人のセールスマンが、アフリカに靴を売りに行きました。現地に着いたとたん、二人とも本社に電報を打ってきます。一人は、

「売レル見込ミナシ。当地デハ誰モ靴ヲ履イテイナイ」

と、悲観的です。ところが、まったく同じ状況にありながら、もう一人の電報は楽天的でした。

「大イニ売レル見込ミアリ。当地デハマダ誰モ靴ヲ履イテイナイ」

楽天的なものの見方と、悲観的なものの見方と、どちらがよいか、いちがいに言えません。わたしは楽天的なものの見方のほうが好きですが、これはまあ好みの問題だといえます。悲観的なものの見方をして、いっこうに構いません。

じつはわたしは、禅というのは、ものの方を変えることだと思っ

らば、——禅とは意識革命である——と言えるのではないだろうか。仏教者らしいものの考え方ができるように、自分の意識を変革することが、すなわち禅だと思ふのです。

では、仏教者らしいものの考え方は、どのようなものでしょうか？

たとえば、わたしは、先日、インドで、こんな体験をしました。

兎と亀の話があります。

兎があゆみののろい亀をからかい、それじゃあ……ということ競争に

なりました。兎は油断をして、途中で昼寝をします。そして、結局は亀に負けてしまいます。有名な話です。

「兎はどうすればよかったですか？」と、わたしはインド人に尋ねました。

同じ質問を日本人にもしたのですが、たいていの日本人は、「兎は油断せず、昼寝をしなけれ

ばよかったです」

と答えます。そうです、あの話は、「油断大敵」といった教訓を教えたものです。

ところが、インド人の答えは意外でした。

「兎には問題がありません。悪いのは亀です。亀に問題があります」

「どうして……？」と、わたし。

「だって、亀は兎が寝ている横をだまって通り過ぎたのでしょ。それはいけません。兎さん、起きたらどうですか」と、なぜ声をかけてあげないのですか。亀には友情がありません」

そして、横にいた別のインド人が、またこんなふうに言いました。

「ひょっとしたら、兎は病気で寝ているのかもしれない。病気で苦しんでいる兎をそのままにして、自分が勝つことばかりを考えている亀は、エゴイストです」

わたしは、亀を通じて、現代日本人が叱られているような気がしました。

わたしは、このようなインド人の考え方が、ほんらいの仏教の考え方だと思ふのです。競争、競争……と、わたしたち日本人は、他人を負かすことばかり考えています。

そんな日本人の姿は、まさに畜生で

す。外国人は日本人を「エコノミック・アニマル」と呼びますが、あのアニマルは「畜生」の意味です。餅の奪い合いをしている犬か猿が、日本人の現在の姿です。とても悲しいことです。

わたしたちは、みんなが仏の子です。誰もが清らかな仏の心を持っています。ただ、それに気づいていないのです。それに気づきさえすれば、わたしたちは他人をいたわり、他人にやさしくできるのです。エゴイストを卒業できるのです。

禅は、自分のうちにある仏の心に目覚めるためのものです。坐禅をすれば、わたしたちが仏の子であることに気づくのです。そうすれば、世界がまったく違って見えてきます。禅は、そのような意識革命です。わたしは、そう考えています。



# 私の抱負



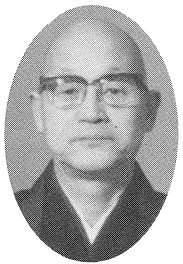
岡山県宗務所教化主事  
矢木 亮司

教化主事、私にとって何とも重い響きをもったことばである。教師との兼務を離れてわずかに四年、自坊の檀信徒の化導さえまならぬ私がこの様な役職を受けてはと、再三固辞しながらも受けてしまった。

あれから一年半、所長老師や宗務所職員の諸老師、全教区長老師の御指導や御叱声を戴きながら何とかやってこれたことにほっとしている。しかし、こんなこともあった。私の寺では毎年十月十日の十時から近隣の方丈様方に御随喜戴き大施食法会を修行している。昨年、威徳寺長田老師の御法話の冒頭に「宗門では今、合掌礼拝運動を展開している。

この寺の住職は県の教化主事をしていのに檀信徒にそれができておらん」と一喝された。正に脳天に鉄槌を喰らった思いがしたし、参詣の檀信徒にも申し訳なかった。先任の代から続いている坐禅会員も、私の代に始めた写経会員も、又総代世話人も必ず本尊様の正面外単に坐って合掌礼拝ができていた。別に教えたり強制したわけでもないが、これが禅門でいう、以心伝心、教外別伝かと密かに喜んでいたので大法要ではそれができなかった。やはり私の化導のぬかりには違いない。

こんな私に、教化主事の抱負や、夢を述べよと教化センターから言われてもとてもそんなことはできない。宗務所行政の末席に待らせて戴いたおかげで、今まであまりお会いすることのなかった県北各寺の方丈様方と交流が持てたこと、宗門や宗務所行政のほんの一部がわかりかけ、その大切さや難しさを身をもって体験できたことなど大変ありがたく思っ



広島県宗務所教化主事  
森藤 文定

教化主事兼人權擁護推進員に任ぜられて一年が過ぎました。長い間学校教育に従事していたので、宗教活動も県下御寺院との交流も不十分であったにも拘わらず御法愛を賜って責を果たさせて貰っていることを感謝いたします。

現在の社会状況は物の豊かさばかり追求しすぎたみかえりとして心の貧しさが青少年問題をはじめとして各分野に諸の問題を惹起しております。今こそ各自が心を問い直す心の時代を自覚せねばなりません。私たち宗教者は「宗祖の原点に立ち返って真の宗教者たれ」と世の批判を浴びている現状を直視し宗教者本来の使命を達成する伝道に精進せねばならぬと決意を新にしております。

ている。いつの日か、ほんの少しの抱負でも、ささいな夢でも語れるよう只管精進したい。

宗門自体解決急務の諸問題に直面していると思いますが、県内宗門の布教化の当面の課題として、  
一、生命の尊厳・人權の擁護と差別の解消  
二、「業」論についての誤まれる認識の是正

この二点を柱として「各種研修会の充実、檀信徒に対する教化に格別尽力する」との所長老師の方針に従い「合掌・礼拝」運動の実践を通して心のやすらぎを共有できる風土を作るように宗教活動を前進させてゆきたいと念願し、宗務行政の一端に微力ながら精進いたします。特に本年秋には中国管区教化センターによる集中伝道が計画されており、関係各位のご協力を仰いで稔りあるものにしたと存じます。  
各諸老師、ご支族のご支援の程をお願い申し上げます。



## 仏教婦人会結成の夢



山口県宗務所教化主事  
青木 源 裕

教化主事の大役を引受けて早や一年が過ぎました。手さぐりで所長の協力を得、前任者の書類等を参考にし行事を運営する事が出来ました。

各寺の繁栄には寺族の協力無くして繁栄はありません。宗務庁も、寺庭婦人の通信教育、スクーリングと力を入れて寺庭婦人の意識の高揚をはかられています。山口県では所長のはからいで六十二年度より、規定を設定しそれに基づいて寺族研修会の会場で表彰をする事になりました。山口県でも仏教婦人会を結成されています。倍の入会をめぐり努力したいと思

います。私のお寺も梅花講はありますが、仏教婦人会を結成していませんでした。教化主事の立場としてもぜひ婦人会を結成しようと総代世話人に話しかけて婦人会結成加入の趣意書を檀信徒に配布し、加入依頼をお盆の

棚経の時各家で随時お話をし、発会式をする事が出来ました。十一月に教化センターの集中伝道で婦人会を対象にお話を聞き、月一回写経会や他の行事を婦人会長及び役員で決定し実行しています。最初の内は人員は少くとも毎月加入者が増えていきます。県内各寺院におかれましても、寺族と住職が力を合わせ、婦人会の結成をお願いします。教区長さんには度々お願いをしています。現在の加入寺院数の倍の加入寺院となる事が私の夢であります。

## 熱い血と涙



島根県第二宗務所教化主事  
伊藤 皓 元

「熱い血と涙」この言葉は、私にとって終生忘れえぬ言葉となりました。本年一月八日、教化研修所の名誉所長、故服部松齊先生（秀嶽松齊大和尚）の本葬が営まれましたが、その時の事でした。

弔辞を奉読された、本庁井上正憲課長が、曹洞宗檀信徒の家庭信条『五つの願い』の制作当時の逸話を語

られたのです。服部先生の宗務庁における最後の仕事となった『五つの願い』の、無常に耐えて強く生きようの項は、無常に耐えての記述に論議を呼んでいたのですが、その時の先生の心境が紹介されたのです。あの文言は、ホテルニュージャパンの火災、旅客機墜落事故の犠牲者の家族への気持で書かれていた事。悲嘆にくれる遺族に、世は無常なのだからその理を悟りなさい、などと書かないと話されたとの紹介があり、そして

「手を握り肩を抱いて共に涙して、悲しいだろう、辛いだろう、耐えて下さい、この無常に耐えて強く生きて下さい、私にはこうしか言えないのだ。やがて時が経つにつれて無常の理を知るだろう。教化者には熱い血と涙がなければいけない。それが慈悲心だよ。それでなければ決して四摂法はわからないよ。」と言いつつ切っておられたのです。知るよしもなかった先生の心境、先生の暖かい言葉が、私の胸にひしひしと伝わってきました。

教化者には熱い血と涙がなければいけない。私の抱負（夢）というタイトルで寄稿しましたが、この言葉のもとに、宗務所の公務にも、教化活動にも力を注ぐ決意です。

## 願うこと



島根第一宗務所教化主事  
永見 勝 徳

島根第一宗務所管内は石見の国と呼ばれ、貧しいながらも法の篤い地方と云われてきた。かつては布教王国とさえ聞かされている。にもかかわらず今日では残念なことにその後継者が少ない。

所長老師は「曹青会員（若い者）は布教師か梅花師範のどちらかをめざして、自分の持分に応じて勉強を重ねてほしい」との基本方針が示されている。これを受けて所主催で年三度の布教講習会、梅花研修会が実施されている。まだ布教実演を自発的に行なう人は少ないが回を重ねる毎に波紋が広がることを願っている。そして全ての宗侶が身業説法と共に、いつでも、どこでも、だれにでも、布教・教化が行なわれ、自己の足元から利他行が広がりその輪が重なり合って、うるおいのある社会となっていくことを望んでいる。価値観が余りにも乱脈しすぎる今日の社会に

### 16mm映画・オートスライド フィルムライブラリー 一覧

#### 【16mm】

#### 【オートスライド】

No.	題名	No.	題名	No.	題名	No.	題名
1	禅のいのち 一般 カラー 26分	15	剣と禅 一般 カラー 13分	1	大本山永平寺 一般 20分	15	修証義の世界 一般 24分
2	禅と共に 一般 カラー 24分	16	きずな 一般 カラー 32分	2	大本山総持寺 一般 17分	16	ご法事のエチケット 一般 10分
3	スポーツと禅 一般 カラー 24分	17	曹洞宗宗務庁 一般 カラー 25分	3	道元禅師様 一般 12分	17	私達のお寺の宗旨は 一般 12分
4	禅はそこにある 一般 カラー 24分	18	明日の太陽 一般 カラー 49分	4	瑩山禅師様 一般 12分	18	だれにでもできる 坐禅の仕方 一般 10分
5	禅のこころ 一般 モノクロ 24分	19	太陽の涙(石の証言) 一般 カラー 49分	5	孤雲懐英禅師のご生涯 一般 17分	19	鉄条網の子供達 一般 28分
6	禅と自然と日本人 一般 カラー 26分	20	ごんぎつね 児童 カラー 21分	6	孤雲懐英禅師七百回 大遠忌にむけて 一般	20	仏壇のまつり方 一般
7	光の中に 一般 カラー 26分	21	キューリー夫人 児童 カラー 11分	7	お盆とお施餓鬼 一般・児童 カラー 11分	21	授戒会のすすめ 一般 カラー 20分
8	ともいきのよろこび 一般 カラー 27分	22	アラジンと 不思議なランプ 児童 カラー 10分	8	曹洞宗の未来を開く 宗務庁 一般	22	御先祖 一般 15分
9	石と信仰 一般 カラー 22分	23	雪舟 児童 カラー 11分	9	授戒 一般 30分	23	法とは人なり 一般
10	道元禅師とともに 一般 カラー 25分	24	一球さん この一球に悔なし 児童 カラー 30分	10	お葬式のエチケット 一般 11分	24	おしゃかさま 児童 13分
11	禅の光り 一般 カラー 28分	25	テレパス・クマラ 児童 カラー 25分	11	仏様の履歴書 一般 16分	25	よくばりめんどり 児童 14分
12	食(じき) 一般 カラー 32分	26	おば捨て山の月 児童 カラー 21分	12	あなたの力で 曹洞宗の明日を 一般 16分	26	花まつり 児童 17分
13	永平寺に生きる 一般 カラー 35分	27	ジャックと豆の木 児童 カラー 10分	13	石のほとけ 一般 15分	27	成道会・ スジャータの供養 児童
14	一輪の花 一般 カラー 43分	28	素敵なお母さん 児童 カラー 29分	14	水子地藏 一般 15分	28	ねはん会・おしゃかさま の思いやり 児童

★他にビデオライブラリーもございます。ご利用下さい。

#### ◎遵守事項

- 使用報告書は映写後、必ず記入して下さい。
- フィルムは映写機の使用法を十分に心得た方が取り扱うようお願いいたします。
- フィルムが切れたり、傷のついた場合は必ずその箇所を明示して御返送下さい。
- フィルムの取り扱いには特に丁寧をお願いします。

#### ★新巻フィルム

- 『まりかの祈り』 カラー アニメ児童用 三十分
- 『道元禅師(いのち)』 カラー 一般用 二十分

以上2巻の16ミリフィルムを導入いたしました。  
今後ともフィルムライブラリーの充実に向けてまいりますので、どうぞご利用下さい。

こそ老若問わず、真の仏教がもっともっと求められていいのではないだろうか。

合掌

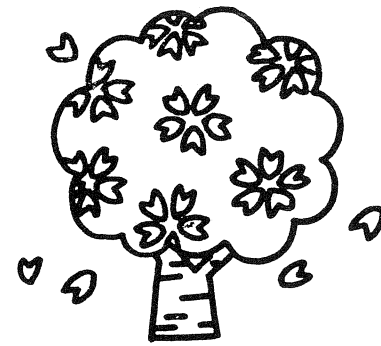


鳥取県宗務所教化主事  
井東 千丈

水子地藏御和讃の一節に「面影さえもありなしのおうに術なき哀れさよ。」とありますが、これが我が仏心であります。遠くの泡影の一つを消さないように、「両手で大切に大切に育て行く。これが衆生悉く仏性あり」と教典にある仏性でしょう。

鳥取県の山の奥で呱呱の声を上げ気がついた時は、檀家四十軒。そして大きな寺に出たいと、七堂伽藍の揃った寺に出たいと、夢をもっていた。「こんな山寺では食えない。」  
「子供の教育は出来ない。」と云う不平不満で時々衣を着る。本当は背広を着たい髪をのばしたいと思っていた時、兵隊に引っぱられ、何んとか「戦死は御免だ。」と思っていたが、私が上等兵の時、兄の戦死の報を得

て、丘に上って思いきり泣いた。声を上げて泣いた。その時に私の運命は決定した。「俺は僧侶になるんだ」と昭和二十年復員して寺に帰った。檀家はやっぱり四十軒だった。焔の前にどっかり座った時、師の頭の白のに驚いた。  
「道心は貧より起る。」この言葉に励まされたり、自己満足したり、七十年の才月を流し、目はかすみ、腰は曲るし、頭はボケる。齒は落ちて、頭光って、身はさびる。歯は落ちて、全部敵しい現実のこと、夢は一つも果たせなかった。



#### 子供参禅指導の手引

こころとからだのために  
坐禅てなかに  
—ビデオテープ—

企画監修 曹洞宗中国管区教化センター  
制作 福山市 アートビデオセンター  
定価 ￥7,000 (送料込み)  
放映時間 17分  
申し込み 〒722 尾道市東土堂町 17-19 天寧寺内  
曹洞宗中国管区教化センター  
0848(25) 2855

◎ご注文の際は機種(VHS/ベーター)を明記して下さい。

静かな禅ブームの波にのって、夏休暇を利用しての子供会、PTA校外活動等の中に、子供集団参禅希望者がふえてまいりました。こうした要望にこたえて、お寺の本堂、ホテルの大広間等を道場として手軽に出来る参禅指導のてびきです。

子供に親しみやすくするため、人形を使ったわかりやすいテキストです。大人にも子供にもご利用下さい。

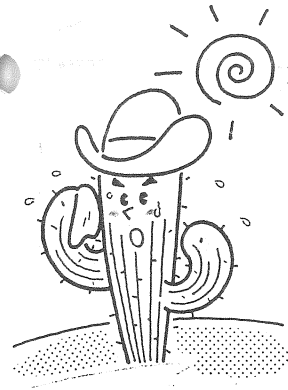
# 広島県第四教区

## 楽しいよい子の集い



堂である愛媛県新居浜市の瑞応寺様に御無理をお願いしました。子供たちは、それぞれ不安と期待のゆきとどいた参道を登りお寺へ到着しました。開講式を勤め、雲水さんから坐禅の説明をして戴き、腹話術やゲームなど楽しく過ごしていました。しかし、坐禅の時間になると皆んなきちんと坐って静けさが戻ってまいります。

黒い衣に浄髪されたきれいな頭の雲水さん、その雲水さんと勤めた朝課、合掌して正座でいただく食事、朝四時から起きて坐った坐禅など子供たちの心に新鮮に、また、強烈に残ったことと確信して記念行事を終えることが出来ました。



本年二月二十八日から三月六日まで八日間倉吉市内の観光名所で知られる玉川の白壁土蔵群内で「ふるさと三仏師展」を開催致しました。曹洞宗鳥取県青年会創立五周年記念事業として、本場の京都で仏像彫刻の修業を重ねたのち郷里の倉吉市内で、精力的に仏像彫刻等に取り組んでいる若手京仏師三人の協力を得て「三師の祈りの心に触れることで見る者の心に何かを残すことが出来たら」と企画し実現致しました。倉吉市内で最初の仏師として仏像を手がけ近年観音像、不動尊、仁王像等様々な仏像を安置する「集仏庵」を開堂した山本紀康(竜門)師。独立後の一昨年春故郷に帰って、創作活動を開始した新進気鋭の仏師として広く知られる仲倉裕幸(裕明)師。

仏像彫刻だけでなく欄間・寺社の彫刻をも得意とし、制作分野は幅広い小谷和彦(和上)師。



仏像と土像の落ちついた雰囲気の中で、期間中の入館者は、延べ三、五〇〇名あり、三師三様の作風で刻まれた仏像とじっくり語り合う多くの人達に深い感銘を与えました。御協力頂きました関係各位に対し深甚なる謝意を表します。

## ふるさと三仏師展 祈りを彫る

## 第三回 洋上セミナー 子供禅のつどい



島根県松江市

大野 道源(十才)

ぼくは、洋上セミナーに一回目からずっと参加しています。だから今年で三回とも参加しているので、一クラスの班長でした。なかなか、言うことを聞いてくれなくてこまりました。

班長の仕事がつつてもたいへんなことだと、これでよくわかりました。だから、色々とお世話して下さい、ほうじょうさんは、もつとたいへんだと思います。

宮島を一周した時は、はいくを作ったけど、でたらめばかり書いてしまいました。石ごろごろの山火事のあったはげ山も見だし、そうじゅう室にも行って、そうじゅうもさせてもらいました。

キャンプドルサービスでは、感しゃのことばとちかひのことばを言いました。大きいローソクでほかの班の人のローソクに火をつけてあげる時は、手がふるえてつけにくかったです。

ざぜんは、苦しいけど、とっても勉強になりました。来年もぜひ参加したいと思っています。

山口県美弥市

南 美智子(寺族)

波静かな瀬戸内をフェリーで宮島へ、今日から始まる洋上セミナー(禅のつどい)に孫と初めて参加、開会式、献燈献華から始まる二泊三日の

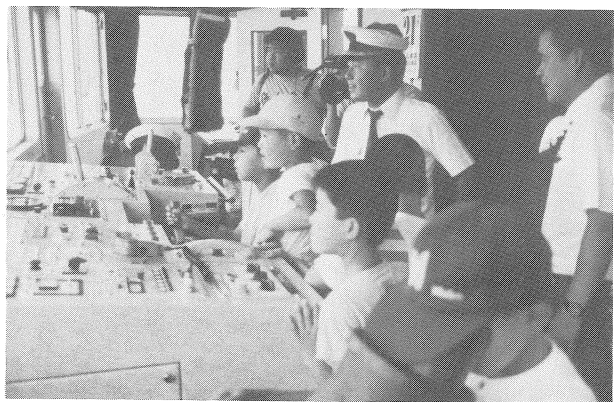
スケジュール、只今ふりかえりましても素晴らしい研修会でした。

心こもった先生方のお話、お経の読み方、坐禅の仕方の指導、その間には素敵なレクリエーションの数々。私共はまだ心を配って下さり童心にかえて楽しんでいただきました。他にもかくにも諸先生方の献身的な奉仕、子供の中にとけ込み、共に学び、遊ぶという姿勢、子供達もすっかり懐いておりました。あれだけの企画、実践にはどれほどの御苦労がと...：只々頭の下がる思いでございました。

帰りましても、毎日お経と坐禅を本堂で孫といたしております。

絵日記もセミナーの事ばかりで「おばあちゃん、鹿は人間の言葉を話すんね」との珍問には、こちらが目をパチクリ、楽しかったのは、腹話術、他県のお兄様に可愛がってもらったこと。このような良い思い出を溢れるばかり残した研修会、もっともっと多くの参加出来るよう祈念します。

このような出会いを作して下さいました御仏様に感謝せずにはおれません。



やわらかな日差しの中で 坐禅くみ心も体も リフレッシュ 相良 裕子(広島)

みやじまの しかおいかけて ずっこける 鷲山恵美子(岡山)

しおかせに あたりながらも みるけしき 板倉亜紀子(島根)

【管内ニュース】

◆広島宗務所

前号でもご報告しましたが、寺院の縁起・歴史等をまとめようと、各教区毎に資料を持ち寄り、第八・九教区は寺院誌(史)を完成発刊し、第七教区でも出版が間近になり、第六教区も計画を具体化しつつあります。

また、梅花流では、昨年の県奉詠大会二十周年を記念し、新曲も加えたミニ教典を編集発刊し、一冊壹千円で頒布中ですが、県内外よりたいへんご好評を得て、式千部製本しました中、お蔭様です。最近中国管区外よりのご注文を受け、有難い事だと喜んでおります。

一方、数年前より青年会活動が格段と盛んになって参り、これに刺激され、寺族会活動もより活発にという気運が高まって来ております。

◆山口宗務所

一 徒弟研修会を昨年迄は洋上セミナーを利用していましたが、距離的な面もあり参加が少ないので今年から県下二ヶ所で徒弟研修会を青少年教

化委員等の指導で実施する。

檀信徒の本山研修は各教区や寺院で実施されている所もありますが、教区で出来ない所も多くあり、県の宗務所で昨年十月末日に永平寺研修会を実施したところバス三台になり各寺院方の協力に敬意を表します。

六十三年度は総持寺と決定し、十月二十六日(二十八日)の二泊三日で総持寺参拝泊、川崎大師、鎌倉大仏、修善寺温泉泊が決定しています。県下寺院の増々の協力をお願いし、多くの参加を希望します。

檀信徒研修会が毎年一泊二日で行われていますが、各教区より参加を依頼し県で約百名の檀信徒が研修をし、宗務所の教化目標である合掌礼拝運動について各年ごと研修を重ねている。この研修会も一泊する事に意義があり肌と肌のふれ合いの研修会は大変有意義である。

◆島根第二宗務所

第四教区は東西に細長い地域に二十八ヶ寺で構成されており、二つの組に分けて行事を実施することもあ

る。「禅の集い」は八月七日松江市古志町瑞竜院、八月二十三日松江市坂本町安養寺において合計百八名の小

中学生を集めて行われた。

「寺族研修会」は年一回、精進料理講習、和紙造り見学等を行っているが、本年度は十月三日松江市浜佐田町円光寺において島根県立女子短大教授柴民芳先生の「問われる教育の原点」と題した講演を拝聴した。

「特派布教」、「梅花特派講習会」は各二場を実施した。

「教区護持会」は春の総会と秋の研修会を行い、各百名近い参加者を集め、教化主事の講演を拝聴した。

石川 正雄

◆鳥取宗務所

「開かれたお寺づくり」に力こぶを入れて鳥取県東伯郡東伯町嶺松院住職田中弘道師。疲弊困憊した伽藍を復興し、「旧態依然とした寺であっては駄目、こちらから社会に出て働きかけなくては、若い人を中心にした仏離れは防げない。このテレホン法話を寺と大衆社会との接点

としたい。」と二年前からテレホン法話を始めている。「設備費は趣旨に賛同して檀家のおばあさんが出して下さった。」法話内容は「特に若い人に聞いてもらいたかったので、線香くさいものだけでなく、軽音楽でもバックに流し乍ら、社会の話題を盛り込んだ内容に心がけています。殺伐とした世の中で、テレホン法話が心

を始めた。今年度は大島郡と決定している。

のよりどころになるようにしたい。」非常にエネルギーが豊富な三十代目の住職は月の半分布教で外出している。皆さんも一度このテレホン法話を聞いてみませんか。電話〇八五八―五二―三三三三。

◆島根第一宗務所

布教講習会開催 島根第一、第二宗務所共催。中国管区、教化センター共賛の標記講習会が、三月八、九両日、大田市グラインドホテルで開催された。

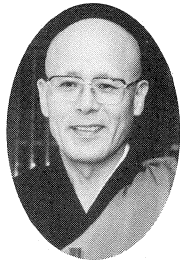
八日十三時開講式に引き続き、講師、長岡統監の「布教の実践について」と題した有意義な講演を聞き、続いて七名の若い布教師の実演が実施された。実演は持ち時間十分をフルに活用した真摯な熱演に終始し、各所長、統監の講評にも熱が入り、約四十名の参加者の感銘を高め、内容の充実したものであった。

翌、九日は岩谷三恵子講師による「ゲーム指導」の講義と実演が実施され、参加者を喜ばした。

今回の講習会は島根の二宗務所の共催による人的交流もなされ、画期的な講習会として注目に価するものである。因に来年度は島根第二宗務所管内で開催される予定。

紙上法話

訪印 仏跡巡拝の旅から



光善寺 松原 徹 心

二月二十九日夜、めぐまれて私は四度目の訪印仏跡巡拝の旅を終え、一行と共に無事大阪に帰り着きました。

大阪に一泊して朝一行と別れ、私はご本山永平寺で開催される孝順会の布教講座に参りました。暖い印度から雪のお山に拝登しますと、一層靈妙な浄域感を覚えます。同時に本当にめぐまれたという有難さに浸り、暁天坐、朝課、展鉢等々痛く胸に響いたのであります。

事務局長の尊兄池田好雄師が「恩師の服部先生が、『徳がつめない者は、仏跡にはお参り出来ないよ』と言われたね。私は、まだまだだよ。」この言葉を、実は三度聞いたのですが、ようやくして今この言葉の深い意味に気付いたのです。いや、気付かせていただきました。

一行の寸描

今回の訪印起縁は、昨春拙寺のご開山忌法会中にはじまりましたので、親しい間柄のご住職方でもとまりました。それに訪印三度目の事業主・保育園長・短大生二・小六生と寺族の女性連にB.S.さんを含め十六名のそれは和やかな家族的一行となりました。

講師と法要導師

出発三ヶ月前より、準備説明会を二度もちました。特に、再入竺のご住職二人に講師役を、お願いしそのご意見を中心に進めました。念入りに打ち合わせましたのは、仏跡聖地の法要勤修であります。全員搭袈裟で、導師は初入竺者を優先として、巡拝する七大聖地での法要次第を決めました。

今回は、お天気がよく時間的にも

早朝の霊鷲山を除き、私達だけのゆったりした法要をつとめることが出来ました。クシナガラでは涅槃仏を囲繞し、遺経を完読させていただきました。こんなことは、はじめてです。

五観の偈を唱える

印度(カルカッタ)に入る前に、バンコックで一泊しました。その朝食のときから、巡拝中の朝食は、五観の偈を唱えて箸をとることにしました。ホテルの食堂では、些か不釣り合いの気もしましたが、とにかく皆で唱えることにしたのです。

こんなことがありました。ラジギールで、早朝の霊鷲山参拝をすませ、ホテルに帰り朝食の卓につき、一同揃って合掌し偈を唱えはじめました。すると、少し離れた卓で既にたべはじめていた同数ぐらいの一行が、いっせいに姿勢を正しはじめ、慌てて帽子をとる人もいました。彼達にはたらきかけた気はありません。ただ、日の出の聖地参拝のあとであっただけに、私達自身の合掌とお唱えが、洗われた素直そのものであったからではないでしょうか。

また、バルランプールのホテルで祇園精舎の参拝から帰り、中食のときのことです。そのときは、念願した仏跡巡拝が、すべて無事につとめ

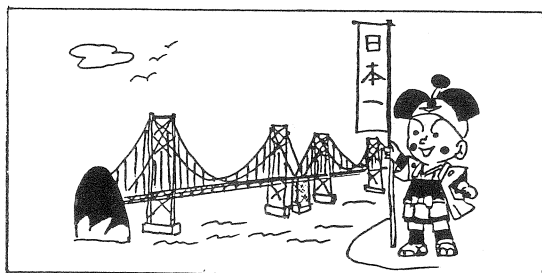
了えられたという悦のお唱えだったのでしよう。それは、有難い唱和でありました。どやどやと、汗をふきふき入って来た浄土真宗の一行が、私達に気付くや直ぐに居住いを正し、静かにお唱えをはじめられました。それはもう、ごく自然に流れるような一齋でありました。この様子をじっと見ていたボーイ達が、何と掌を合わせはじめたのです。ほんのひと時ですが、忘れられない情景でありました。

法は人なり

若し今回、再入竺のご住職をはじめ、疎通のご住職方がそばに居られなかったら、この様な有難い感動も、また「お経にこんな意味があるとは知りませんでした。お釈迦さまって身近なのですねえ……感懐です。」「この次は、ぜひ結婚して主人と子供と一緒に巡拝したい。」と、目をうるませて叫ぶように言った短大生の声も、聞かれなかったと思います。仏法を歩む人の合掌はすばらしい、仏法に生きる人のお経は有難い。仏跡聖地は、いまでも黙って仏の心を説きつづけているのです。

そうです、お釈迦さまは「一心欲見仏不惜身命時我及衆僧俱出靈鷲山」と、お経にお示しの通りなので

### 禅を聞く会 岡山市で開催



中国管区における第一回「禅を聞く会」が、昭和六十二年十月二十七日（火）、岡山市民文化ホールで開催された。これは中国管区教化センターが企画し、岡山県宗務所と共催で、管内としては初めてであった。日時、会場設定、講師依頼は教化センターで、当日の運営は宗務所で担当した。講師は、ひろさちや先生で、聴衆を集めるには申し分ないが、問題はウィークデーの午後一時から三時半という日時の設定である。坐席数六百名の会場がほぼ埋まる程の人数を集めることができるかどうか、二度三度と開いた宗務所会でも

心配はこの一点にあった。最終打合せ会を、岡山市景福寺様で開く。当日の進行表に合わせ、全体の流れ、各係の分担等、細部に亘って検討をした後、会場を視察、会場係員とも打合せ、市役所記者クラブへ出かけP・Rもお願ひした。当日九時会場集合、設営、リハーサル確認を行った。正后に開場、ぼ



つぼつ聴衆が会場に入ってくる。午後一時の開会前には一階がほぼ満席になり、全員ほっとする。結局この日の聴衆は予想をはるかに上回り、一般約三百四十名、住職、寺族を合せると約四百名であった。

司会の開会のことばに続き、広島県、松月義峰老師の詠讃歌「浄心」の奉詠で始まった。澄み切った音色、流麗な節回しに聴衆は水を打ったように静かに聞き入る。緞帳が揚ると主催者である教化センター統監長岡徹宗老師の挨拶、続いて、ひろさちや先生の「生活の中の仏教」と題した講演があった。難しい仏教語などまるで出てこない。それでいて仏教の真髄を説かれる先生の講演に聴衆は聞き入った。休憩の間にアンケートをお願いした。会場が暗転、木版一通、止静三声、静かに緞帳が揚ると、中央に威徳寺方丈、左右に華光寺方丈、景福寺徒弟、千光寺寺族、林鐘寺寺族、円通寺及び長連寺坐禅会員各二名の坐禅の姿がスポットに照らされ浮かび上がった。聴衆に対する長岡統監老師の椅子坐禅指導がはじまると、会場は咳払い一つ聞こえぬ一大禅定に入った。約二十分、雲版、木版交打三会、故禅鐘一声で大開静、福田隆徳岡山県宗務所長老師の閉会挨拶で無事終了した。



一大行事を予想以上の聴衆に集まってもらって円成できたことで、会の運営に当たってきたどの顔にも安堵感が見られた。後日何人かの参加者に感想を聞いた時、異口同音に「又こうした機会を作ってほしい」という答えが返ってきたことで、まずはそれなりの成果があったと確信できた。思えば、この会の運営に携わった全ての関係者の力の結集であった。

## 佛事の豆智識

### 北枕

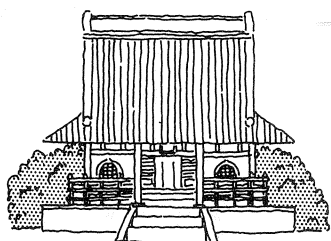
遺体を納棺するまでの間、寝かせておくが、顔には白布をかけ、両手を胸のあたりで合掌させ、手に数珠を持たせる。その寝かせ方は、北枕にする。

この由来は各種経典にみられるが、たとえば「ねはん経」に、「その時、世尊・・右脇にして臥す。頭を北方に枕し足は南方を指す。面は西方に向い、後背は東方なり」とあるように、お釈迦様が入滅された時、頭を北にして顔を西に向けていられた姿をかたどったものである。

一般的に北枕は、死んだときだけで、生存中は縁起が悪いと思われています。ところが、お釈迦様は、一生を北枕で通されたお方なのです。

地球は北と南を軸にして自転しております。その地球上に生活す

る全ての生物は、北と南の軸にそって寝ることが、もつとも自然に適した健康法なのです。お互いに死んでから北枕にするのではなく、生きている時こそ、「頭を北方に枕し足は南方を指す」お釈迦様の教えを実行したいものです。



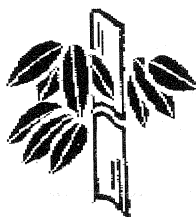
## ひろさちや先生の御紹介

ひろ さちや（ペンネーム）先生は、東大印哲科御卒業後、永く気象大学教授として教鞭をとられ、退官後「宗教評論家」として大新聞等のマスコミ関係への執筆、各方面に亘る多数の著書、全国講演行脚等々、巾広く御活躍の知名の先生です。

特に近來ともすれば暗いイメージに促われがちな仏教用語を、新しい感覚でユニークに親しみやすく説き明かし大衆に深い感銘を与え、仏教のイメージアップに貢献していただいていることは周知の事実です。

今般期せずして本誌に、すばらしい先生の玉稿をいただき錦上添花を添えさせていただきますことは深謝にたえません。

今年十月二十二日鳥取の「禅を聞く会」には、昨年の岡山にひき続き御出講いただくことになっております。



### ひろ先生出版物紹介

- 仏教のことば・考え方 大法輪閣
- 阿修羅よ…… 冬樹社
- 地獄と娑婆のお地藏さん 大法輪閣
- 入門・般若心経の読み方 日本実業出版社
- 釈尊と十大弟子 法蔵館
- 仏の世界と輪廻の世界 大法輪閣
- 観音経——奇蹟の経典 ダイアモンド社
- 一日一禅 ごま書房
- 仏教の常識 講談社
- 地獄と極楽 すぎき出版
- 仏教に学ぶ八十八の智恵 P H P 研究所
- 仏教の常識（座右版） 講談社
- 仏教とインドの神（編著） 世界聖典刊行協会
- 死の世界・死後の世界 池田書店
- いま、釈迦に学ぶ生き方 徳間書店
- 仏教をどう生きるか 大蔵出版
- お墓・仏壇のまつり方 ごま書房
- 般若心経・人生をどう生きてみないか 日本実業出版社

派遣布教師名簿

Table with 5 columns: Location (e.g., 岡山, 広島), Name, Temple, Address, Phone Number. Lists dispatched missionaries across various regions.

Table with 5 columns: Location, Name, Temple, Address, Phone Number. Lists members of the Planning Committee (企画委員).

Table with 5 columns: Location, Name, Temple, Address, Phone Number. Lists members of the General Planning Committee (総合企画委員).

利用の手引

一、申請の仕方

「派遣申請」用紙一枚を同封いたしますので、必要事項をご記入のうえ、コピー等にて、申請者又は教場主の控を作り、お早めにセンターまで送付して下さい。内容を確認して、ご返事いたします。

又、事情によっては電話による申請も受け付けます。

尚、ご希望の布教師・講師を要請する場合は、出来るだけ早期に申請願います。都合によっては他の人に変更したり、どうしても都合出来ない時は、要請をお受け出来ない場合も有りますので、ご了承下さい。

二、申請の種類

申し込みの受付に、二種類の区別があります。

1. 派遣

教化センターの年間布教計画に基づき、宗門所・教区等を通じての申請

がなされた場合を原則とします。この場合の布教師・講師・伝道車布教員の旅費と弁当代がセンターより支給されます。但し宿泊の必要ない場合は、申請者又は教場主の負担となります。

2. 特請

派遣以外の私的な要請によりセンターから布教師・講師・伝道車を出張させる場合を原則とします。この場合は一切の費用を申請者又は教場主に負担して頂きます。

但し、二ヶ月以内に申請が出される派遣としての申請する意向の有った時は派遣扱いとします。
※ 日曜日・祭日に企画した行事は、センターでも派遣の都合がつきにくいので三ヶ月以上の余裕を以て申請下さる様お願い致します。

三、派遣布教師・講師に対する謝礼について

当センターの運営委員会(各宗務

所長が組織する)に於いて決定する。

―内規である―

謝礼

教場主 適当額の謝礼をする。

センター 宗務庁の規定によって

旅費実費、弁当代を支給する。

但し、年度ごとに運営委員会で検討を重ねてゆく。

※特請については規定をしない。

四、センター管理のフィルム貸出しについて

教化センターの活動に支障のない場合に限り貸出します。使用料は無料とします。但し、輸送の場合は返送のみ使用者負担とします。貸出し期間はその都度、検討し決定致します。破損した場合はセンターの指示に従って頂きます。

※布教機器
○伝道車(街頭布教・街頭広報)
○エルモ16mm映写機
○北辰社16mm映写機
○オートスライド
○放送機械一式

テレホン法話 設置寺院

Table listing telephone sermon locations and phone numbers across various cities like 岡山, 広島, 山口, etc.



第二回 禅を聞く会

中国管区  
共催 中国管区教化センター  
鳥取県宗務所

今、全国的に大きな関心とブームをよんでいる“禅話と椅子坐禅”を内容とした 第二回禅を聞く会 を開催します。僧俗共々奮って御参加下さい。

記

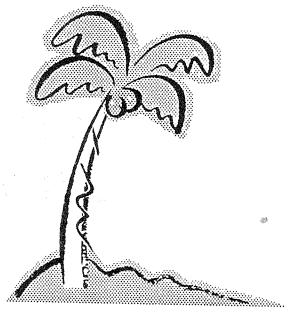
期 日 昭和63年10月22日(土)  
場 所 鳥取県宗務所管内  
講 師 ひろ さちや 先生

セ ン タ ー 役 職 員

統監	長岡徹宗	善昌寺内	〒729-34 甲奴郡上下町上下341	☎ 084762 -3054
主監	用元一雄	長光寺	〒722-24 豊田郡瀬戸田町垂水830	☎ 08452 7-2467
賛事	村上邦雄	摩訶衍寺内	〒722-01 尾道市原田町梶山田4338	☎ 0848 38-0656 ☎ (連)0849 53-9153
賛事	飯島孝文	長福寺内	〒722-22 因島市中庄町3273	☎ 08452 4-0391

編集後記

昨年十二月一日、新主監として、用元一雄師が任命されました。宗務庁勤務の長かった師は、その経験をいかし今後のセンターと中央とのパイプ役、又、教化の実践活動にと、いかに力発揮されるものと思われまます。これからも管区内で寺院様の一層のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



第四号 昭和63年4月1日発行  
編集発行所

曹洞宗中国管区教化センター  
尾道市東土堂町十七ー二九

天寧寺内

電話 〇八四八ー二五ー二八五五

印刷所 イトウ印刷